

# 日中両語の依頼ストラテジーの使用と表現形式

——日中合同授業の教室活動から——

森山美紀子・峯谷秀美

## 〔要旨〕

本稿<sup>1)</sup>では「外国語学習と異文化理解をどうつなげるか」という日中合同授業の課題に対し、異文化間語用論を援用し、「依頼」という身近な言語行為を通して、日中両語の言語構造・表現形式とともに語用論的特徴を学習する教室活動を試みる。その方法としては、学習者自らが日中両語の母語でシナリオを作成し、目標言語との比較を通じ、各々の談話に現れた母語の在り様について考察するという過程を重視した。合同授業のメリットを活かした教室活動を通じ、日中両語の言語運用ルールや社会文化的背景を学習者自らが実感的に掴むという、異文化コミュニケーションに必要な実践的言語運用力を養う外国語学習方法を提案する。

〔キーワード〕 異文化間語用論、合同授業、依頼表現、ポライトネス・ストラテジー

## 0. はじめに

2008年の春学期から留学生教育センター（現・国際教育センター）別科開講「日中比較研究」の履修者である中国語母語話者と外国語教育センター開講「中国語会話初級1, 2」の履修者である日本人学生との合同授業を始めて3年が過ぎた。同世代の学生が同じ教室で互いの目標言語を学ぶことのできる合同授業のメリット・可能性は大きい。そのメリットを活かして履修者が如何に効率よく互いの言語・文化を学べるか、如何に相互理解・交流ができるかということを考えながら、教員間で授業活動内容について様々なアイデアを出しつつ授業法を模索し、1 Semester 15回のコース・デザインを行ってきた。しかし Semester を重ね、定番の活動（自己紹介・ゲーム・歌・グループ会話・グループ発表など）が増えるにつれて、似通った内容が繰り返される傾向が出てきた。合同授業のメリットを活かした外国語学習の可能性を更に開拓するにはどうすればよいか。日中両言語、それも学生たちが普段使っている母語による対話を材料とし、それらを比較・対照することにより、言語それ自体から互いの文化・社会習慣についての理解を深めることはできないだろうか。2010年度秋学期は、これまでとは趣向を変え、異文化間語用論の視点を取り入れた教室活動を試みた。

## 1. 語用論からのアプローチ

### 1.1 語用論的言語運用能力をつける教室活動の必要性

外国語の基礎となる発音や語彙、文法など一定の言語学的知識を身につけた学習者にとって、次の課題となるのは外国人とのコミュニケーションを円滑に行える能力を養成することである。外国人とのコミュニケーション場面とは即ち異文化接触場面である。それぞれの言語には、その言語と密接な関係を持つ文化・社会的な背景とそれに裏打ちされた言語運用ルールがあり、そのルールを理解していないと、言語的には正しくても異文化摩擦や誤解、ミス・コミュニケーションが生じることとなる。単に言語能力があるのみでは、その外国語の話者と効果的なコミュニケーションが行えるとは限らない。

橋元・他 1992では、外国人とのコミュニケーションにおいて生じる、互いの意思疎通を阻む問題として、①ことばの意味的側面の不理解、②生活文化的背景の問題や価値観の相違、③コミュニケーション・ルールの相違が挙げられている。このうちの③コミュニケーション・ルールについては、従来の異文化コミュニケーション研究ではあまり注意が払われてこなかったものであるとし、いくつかある相違のうちの一つとして語用論的言語運用規則の違いにより生じる誤解が挙げられている。これらの誤解は、言語文化圏により言語表現と発話意図の結びつき方にズレがあることから、ことば自体というより言語の運用ルールないし言語背景的な前提の不理解から生じるものであるとされている。

異なる文化・社会的背景を持つ言語使用者によって遂行される言語行為 (linguistic action) を対象とし、文化・社会の違いが言語コミュニケーションにどのように反映するのかを語用論の枠組みを援用し明らかにする研究が異文化間語用論 (cross-cultural pragmatics) である (清水 2009)。具体的な言語行為を通じて言語と文化・社会的背景との関係を見るという異文化間語用論は、「外国語学習と異文化理解をどうつなげるか」という合同授業の課題に新たな切り口を提供している。この異文化間語用論的視点に立ち、母語と目標言語とでは言語運用ルールがどう違うのかを学習者自身が認識できれば、母語の運用ルールをそのまま目標言語に持ち込む不適切な転移を防ぐことができる。異文化間語用論を援用した教室活動は、学習者の目標言語の実践的運用能力を養成するために必要かつ効果的な学習方法であると考えられる。

### 1.2 行動要求表現としての「依頼」

日本人学生と留学生が知り合い、双方がコミュニケーションを通じ関係を深め合っていく過程で、コミュニケーション・ルールの相違を要因とする誤解や摩擦が生じやすい発話行為の一つとして考えられるのが、聞き手への命令・勧誘・依頼の行動要求表現 (王 2005) である。鈴木 1989は円滑なコミュニケーションを行うためには、聞き手に不快感を与えないことや発話の丁寧さが必要不可欠であると述べているが、この聞き手に不快感を与えないこととは、即ち「聞き手の私的領域」に踏み込まないことであり、聞き手の欲求・願望・意志・感情・感覚など個人のアイデンティティに発話内容が抵触しないことである。この点から言えば、聞き手

への命令・勧誘・依頼などの行動要求表現は、要求を通じて相手に何らかの負担をかけることであり、発話することにより直接的・間接的に聞き手の私的領域に踏み込むFTA（面子を脅かす行為、face-threatening act）となるため、話し手は行動要求に関与する諸要因を考慮し、場にそぐう適切な発話行為を行わなければならない。

キャンパス内での日本人学生と留学生の日常的なコミュニケーションを考えると、命令の行動要求はFTA度が高く、特別なシチュエーションでない限りは回避される表現であるが、勧誘・依頼のFTA度は相対的に低く、命令よりも使用される率が高い発話行為である。勧誘は話し手が聞き手に利益をもたらすようなことを提案したり、聞き手とともにある行為をしたりするように働きかける発話行為であり、聞き手も十分に断る余地があることが発話行為の前提となっているため、コミュニケーション摩擦をもたらす可能性はさほど高くないと考えられる。一方、依頼は勧誘と異なり話し手の利益になる内容が殆どであるためFTA度は勧誘に比べ相対的に高く、かつ聞き手に断られた場合、話し手の行為そのものが否定されることにもなり得るため、双方の感情を損なう可能性も高い。このようなコミュニケーション関係の構築という点での難易度を考慮し、今回の合同授業ではFTAによるコミュニケーション当事者双方に誤解や摩擦を招きがちな依頼発話行為を取り上げる。

## 2. 依頼表現についての先行研究

### 2.1 日中両語の依頼表現の先行研究

日中の依頼表現に関する先行研究は、調査・分析対象としての依頼表現から見ると、大きく文レベル及び談話レベルの調査・研究に二分される。文レベルの研究には、安本 2009、相原 2008、浜田 1995、山岡・他 2004、林 1982、馬場・他 1992、谷口 2006、若生・他 2000が、談話レベルを対象とした研究には謝 2001、李善子 2002、許 2002、関口 2007、王静 2010等が挙げられる。

依頼表現には、語彙・構文などの言語的特徴だけでなく、話し手と聞き手の社会的距離（地位・年齢・性・親密度等）、利害関係、依頼内容の負担度、配慮・丁寧度、社会的道徳・慣習など多岐にわたる語用論的要素が総合的に関与することから、先行研究ではこれらの変数と依頼表現との関係性についての分析・考察が中心的テーマとなっている。

上に示したように依頼表現に関する研究報告は多く見られるものの、中村・他 2004で指摘されている依頼場面の性質上の違いを考慮した先行研究はほとんど見られない。中村・他 2004では、依頼場面には「恩恵場面（依頼者が一方的に利益を求める依頼）」と「修復場面（依頼者が被依頼者によって引き起こされたネガティブな状態の改善を求める依頼）」に分けられるとされている。この2種の場面のうち、先行研究で扱われているのは大多数が「恩恵場面」である。本稿では依頼場面の性質上の相違に着目し、先行研究では取り上げられていない、FTA度の高い「修復場面」を対象とし分析・考察を行う。

## 2.2 依頼発話行為について

### 2.2.1 日本人・中国人にとっての依頼行為

日本人・中国人にとって依頼行為はどのように捉えられているのか。

FTAを伴う依頼行為は、日本人にとって遂行上非常に気を遣う行為と捉えられているが、中国人にとってはそれほど遂行しにくいこととは感じないようである。例えば浜田1995では、依頼表現の方略において、日本語では婉曲的・間接的な表現が多用されるが、中国語では「お互い様」という互惠性を明示する方略がとられるとしている。これは、中国人社会においては依頼の補償としての互惠的行為が大きな役割を果たして、互いに頼み頼まれることで人間関係が強固になっていくという側面があり、時に中国人から「日本では誰にも物を頼まれないので友達ができない」という声が聞かれるということもあるという。さらに関口2007では日本語母語話者と台北在住の中国語母語話者を対象とし、依頼についての調査を行っている。その結果、「依頼行動についてどう思っているか」との問い（第4章 図2）に対し、「とても依頼しにくい」との回答が日本人約25%、台湾人約5%、「依頼しやすい」との回答が日本人約20%、台湾人約40%となっている。「依頼行為そのものについてどう考えるか」との問いには、日本人・台湾人ともに6割超が「必要であればすべき」と回答しているものの、一方で日本人の「(依頼行為は)できればしたくない」との理由に「人に迷惑を掛けたくない」との理由が目立ち、台湾人は依頼行為が必要であるとの理由に「互いに助け合うため」を多く挙げており、日中間で依頼行為に対する意識には大きな差があることが分かる。

### 2.2.2 談話行動としての依頼

2.1で見たように、先行研究に見られる依頼表現へのアプローチは文レベルと談話レベルに分かれるが、話し手と聞き手の間で行なわれる実際の依頼行為は複数の発話群から成る。「依頼」へのアプローチについては、熊取谷1995において、単一発話で成立する発話内行為とする捉え方から複数の発話群（「詫び」や「説明」など）からも成立する談話行動としての視点転換が不可欠だと述べられている。また謝2001では、林1982、馬場・盧1997の「日本語は、動詞・助動詞を駆使し、表現パターン・丁寧度を多様に構成し得ているが、中国語は孤立語で動詞の活用もなく、敬語に専用の助動詞もなく、婉曲を尽くすことに大変不得手である」とのことから、日中両言語の「依頼表現」は、それぞれの言語構造に大きく影響を受けており、「依頼」及びそれが生み出す対人機能に対する研究は、一文レベルではなく談話レベルからの考察がより有効だと考え、日中両言語の談話レベルから見た「依頼発話」の切り出し方についての調査・考察を行っている。本稿もこれらの先行研究の考え方にに基づき、依頼を談話行動として捉え、依頼の発話群を対象とした分析を行う。

先行研究においては、依頼行為を構成する発話群の構造には言語により相違が見られることが明らかにされているものの<sup>2)</sup>、複数の言語間に共通する依頼談話構造の骨組みというべき普遍的モデルが打ち出されている。1980年代半ばに行われた「異文化間発話行為実現プロジェクト」〔CCSARP (The Cross-Cultural Speech Act Realization Project)〕による複数言語間の発話行為の分析をもとに抽出された依頼発話の普遍的モデル（清水2009）によると、依頼の発話

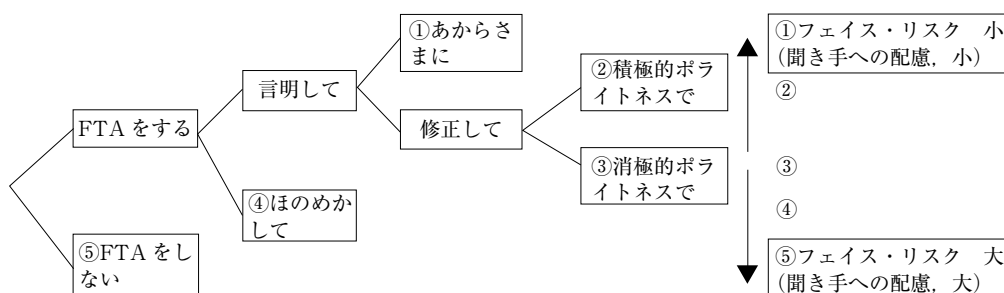
群は①注意喚起部, ②補助手番部 (依頼の力を弱めたり強めたりする補足的な部分), ③主要行為部という異なる機能を持つ3つの部分から成り (但し①~③が常にそろっているわけではない), ②と③ではそれぞれ語彙或いは統語レベルでの依頼の効力の軽減・強化のための「内的修正」, 「外的修正」の操作を行うことが出来るとしている。さらに②③において複数のストラテジーを駆使することにより, 様々な規定因の関わる依頼場面に対応する発話が産出されることになる。

### 2.2.3 フェイスとポライトネス・ストラテジー

ポライトネス理論では, 社会的存在である人間の持つ基本的願望・欲求のことをフェイスという。フェイスには2種類あり, 一つは他者に受け入れられたい, よく思われたいという願望である積極的フェイスで, もう一つは他者に自分の領域に踏み込まれたい, 自由でありたいと願う消極的フェイスである。私たちは誰でもこの二つの異なった願望を同時に持っている。依頼という言語行為は, 聞き手の将来の行動の自由を一部制限するため, 聞き手の消極的フェイスに対するFTAとなり, また聞き手が依頼を断る場合には, 相手に認められたいという聞き手の積極的フェイスが脅威に晒されることとなる。

FTAを行う時, 人は目的達成と対人配慮を天秤に掛け, この両者の最善の均衡点を見つけようとして, それに見合った言語的ストラテジーを選択する。このように人間のコミュニケーション上の願望=フェイスに基づいて言語行為の方略を分類した理論は「ポライトネス・ストラテジー」と言われ, Brown & Levinson1987によって発案されたものである。このポライトネス・ストラテジーは相手のフェイスを脅かす度合いに応じて表Aのように5段階に分類される。

表A 「FTAを行うためのポライトネス・ストラテジー」の5段階レベル<sup>3)</sup>



①は, 聞き手への配慮をせず「あからさまに言う」ストラテジーで, 配慮度はゼロである。②は「積極的ポライトネス」と呼ばれ, 相手側の認められたい, 好かれたいという積極的フェイスに向けた言語的配慮を行うもので, 聞き手に自分が仲間であると感じさせるようにする表現, 例えば, 親近感や共感を高めるジョークや終助詞などで表される。③は「消極的ポライトネス」で, 聞き手の持つ他者から領域侵犯されたくないという消極的フェイスに向けられた言語的配慮であり, 聞き手に迷惑をかけたたくないという話し手の気持ちが, 聞き手に選択権を与える疑問文や負担の軽減化や謝罪などの形で表される。このような間接的な表現は聞き手の選

択の度合いを広げ丁寧度が増すが、情報の伝わり方は弱く、聞き手は断りやすくなり、目的が達成できなくなる可能性が高くなる。④は③よりも更に配慮を優先し、言語としては明示せず「ほのめかす」程度にとどめるストラテジーであり、聞き手の察しがなければ、FTAの目的が実現しない可能性が高い。⑤は対人配慮を優先するあまり、ついには言語行為を放棄するストラテジーである。発話行為における情報及び発話意図の明確な伝達と聞き手のフェイスへの配慮度は、上記①～⑤のストラテジーにおいて反比例の関係にあると言える（滝浦 2008）。

### 3. 依頼場面の設定

#### 3.1 場面の特徴

今回の合同授業で依頼場面として取り上げるエピソードは桜美林大学中国語スピーチコンテスト原稿「我留学時の同屋」<sup>4)</sup>である。この文章は、作者の北京留学時代のルームメートとのトラブルについて書かれている。ルームメートが夜、部屋に恋人を連れてきて、遅くなくても帰らないことが続いたが、作者はルームメートに「恋人が夜遅くまで部屋にいるのをやめてほしい」と頼むことができず、我慢してしまう。しかし、夜も眠れない日が続いたことで、作者はルームメートにそれまでの不満をきつい言葉で伝えてしまい、その後ルームメートの態度が変わってしまったことで、自分の本心を伝えられないまま帰国し後悔しているという内容である。

今回の合同授業では、多くの先行研究とは異なる FTA 度の高い依頼表現を取り上げ、人間関係維持という点から見て依頼しづらく、適切な表現が出来なければコミュニケーションの断絶という深刻な状態をもたらしかねない「修復場面」において如何に依頼行為を行うかということについて考えることにする。

教室活動として、グループ分けした日本人・留学生に「自分が当事者だったら、ルームメートの行為をやめてもらうために、どのように依頼するか」について、それぞれの母語で自然な流れとなるような対話シナリオを作成させることとした。シナリオ作成に当たり、依頼場面設定における要件を下の（ア）～（エ）とした。

- （ア）依頼内容：ルームメートの恋人が夜遅くまで部屋にいることをやめてもらいたい
- （イ）依頼対象：留学生宿舎のルームメート
- （ウ）依頼理由：（部屋でうるさくされることに）ずっと我慢していたが、一向に改善される気配がなく、夜も寝られず困っているため
- （エ）依頼条件：アサーティブに表現すること

注意すべき点は、（イ）の依頼対象がルームメートであるので、依頼行為における規定因となる上下関係・親疎関係は<同位・親密>関係となるが、日々の生活上顔を合わせざるを得ない間柄であるため、関係維持にも気を遣わなければならないという点である。さらに依頼条件として（エ）の「アサーティブな表現」に配慮することとした。「アサーティブ」とはコミュニケーションにおいて、自分のことを考えると同時に相手のことも考慮するという「さわやかな自己表現」のことを言う（入江・他 2008）。アメリカの心理行動療法家により、それまで非

主張的であった人が、アサーティブな表現スキル習得のためのトレーニングの過程で自分の意見をはっきり言おうとすると、いきなり攻撃的になる事が明らかにされており、これに対し、非主張的でも攻撃的な自己主張でもなく、上手く自分の意見を伝えられるような自己表現を「アサーティブな表現」と言う。今回、合同授業で取り上げた“我留学時の同屋”の作者はルームメートの行為に対して不満を感じていたものの、相手に対する遠慮、気遣いを優先し、同時に日本人同士であれば当然相手が自分の気持ちを察してくれるはずだという前提を外国人にも無意識に当てはめ、自分の気持ちを押し殺してしまい、我慢した挙句に攻撃的な主張をすることになってしまった。文化・習慣の異なる相手とコミュニケーションする場合は、同国人同士のコミュニケーションでは言語化する必要のないことも、逐一言語化して伝えなければならないことが往々にしてある。普段は非主張的な傾向にある日本人が外国人とのコミュニケーションで上手く自己主張ができず、結局は「攻撃的な主張」をしてしまい、コミュニケーションが阻害されてしまうことはよく見られる現象であろう。今回の依頼表現のシナリオ作成では、アサーティブな自己表現を取り入れた依頼行為の達成を目指し、聞き手に依頼を承諾してもらう上で、聞き手に否定的感情が生起せず、依頼者に対する印象も肯定的であるという結果を得られるような談話展開を考えるべく、事前にアサーティブな表現を理解するための基礎知識レクチャーの時間をとった。

### 3.2 教室活動の具体的工程

教室活動の具体的工程は以下の通りである。①から④の工程は3コマの授業で行い、その他に必要があれば授業外グループ作業を適宜行うこととした。

- ①依頼場面の基となる3.1のスピーチコンテスト原稿について、日中台混成の5グループに分かれ翻訳作業を行い、問題発生の状況について全員で認識を共有する。
- ②母語の依頼表現の特徴を考えながら、日本人は日本語シナリオ、留学生は中国語シナリオを作成する<sup>5)</sup>。出来上がったシナリオを基に、各グループで役割練習を行い、全体発表時は日本人は中国語シナリオを、留学生は日本語を演じる。
- ③各グループの発表に基づき、全員で相互評価及び問題点の検討を行う。セリフの言い方の自然さを母語話者間でチェックし合い、イントネーションの確認、ニュアンスの把握、日中両語の文末表現の相違など各シナリオの特徴を挙げ、話し合う。
- ④日本語表現と中国語表現での優先要素の違いを抽出し、かつ依頼表現の形式を確認し合い、各自レポートにまとめ提出する。

## 4. 依頼表現シナリオの分析

### 4.1 依頼表現シナリオの分析方法

合同授業で各グループが作成したシナリオ〔稿末資料3〕表B・C参照〕は、2.2.2の清水2009の依頼発話の構成要素と修正操作、及び意味公式<sup>6)</sup>に基づき分析した。意味公式とは、依頼行為における発話群を、その意味機能によって分類したものであり、異文化間の発話行為を

談話レベルから比較・対照する際の単位として有用であると考えられる。

今回のシナリオ分析に当たっては、(ア) 依頼の口切りとしての「注意喚起」、(イ) 依頼が行われることを予告する「前置き」、(ウ) 依頼事情の説明つまり「依頼理由」、(エ) 依頼内容を表す「依頼要件」、(オ) 依頼実現に向けての「代案提示」、(カ) 聞き手への配慮を表す「感謝」「謝罪」「許容」などの「補助表現」に分類した。そして、(ウ) (エ) (オ) の部分を「主要部」とし、聞き手の行動の自由を侵害しかねない依頼命題を、どういった配慮をしつつどのような言語表現を以って伝えるかという点から、依頼命題の提示方法と言語表現形式に現れるフェイスとポライトネスを考慮しストラテジー・レベルを判定する。

主要部の「依頼要件」は「直接的依頼」と「間接的依頼」に分けている。「直接的依頼」と「間接的依頼」の分類は研究論文によって指示範囲が異なるが、本稿では情報の明晰性の程度を抽出するため、中心的依頼要件（「彼に遅くまで部屋にいないでもらいたい／帰ってもらいたい／来ないで」など）を明示している表現を「直接的依頼」、中心的依頼要件に触れず、婉曲的・回避的な表現で依頼しているものを「間接的依頼」とした。それぞれの部位には言語表現形式上の操作（語彙・統語的手段による依頼効力の格下げ・格上げ）が行われることがある。

#### 4.2 依頼発話行為における主要部の意味公式とポライトネス・ストラテジー

4.1の分析方法に基づき、一連の依頼発話行為（表B・C参照）から主要部を取り出し、意味公式及びポライトネス・ストラテジーの観点から図示したものが下表D・Eである。意味公式は各欄に記述し、特徴的な言語表現として、「彼氏が遅くまでいる」等の聞き手行為の問題点を明示している箇所を\_\_\_\_\_で示し、依頼文型は\_\_\_\_\_で、聞き手への配慮を表す婉曲的緩和的な表現は\_\_\_\_\_で示す。

表D 日本語シナリオ主要部とポライトネス・ストラテジー・レベル

		主 要 部			ポライトネス・ストラテジー・レベル PSL
意味公式		理由（前置）	理由（後置）	依頼要件	
日本語シナリオ	A班	理由		言明なし	④
			<u>彼氏が遅くまで部屋にいと困るんだよね。居づらいんだよね。</u>		
	B班	理由		間接的依頼+統語的格下げ	③
			<u>今日はちょっと早く寝たいな…</u>	(そっか。じゃあ、今日はやめとくね。)これから彼氏を連れてきたい時は相談して <u>くれない?</u>	
	C班	理由		間接的依頼+語彙・統語的格下げ	③
			<u>毎日授業が早くて、早めに寝たいから</u>	<u>もう少し静かにしてもらえないかな。</u>	
D班	ほのめかし		言明なし	④	
		楽しかったけど、こんなに遅くまでだと、明日起きれないよ。			
			間接的依頼+語彙・統語的格下げ	③	



E班	彼氏が来る時はもうちょっと静かにしてもらえないかなあ？	③
----	-----------------------------	---

表E 中国語シナリオ主要部とポライトネス・ストラテジー・レベル

		主要部			PSL
意味公式	理由(前置), 代案提示	依頼要件	理由(後置)		
中国語シナリオ	A班	理由	直接的依頼+語彙・統語的格下げ		③
		所以我希望能早点睡。 (だから早目に寝たいんだけど)	所以, 可不可以请你男朋友不要在我们房间待到那么晚呢? (それで彼氏に遅くまでいないように言ってもらえないかな?)	他待太晚, 常常让我睡不着。(遅くまで居られると寝られなくて。)	
	B班	代案提示	代案提示		②
		你们偶尔也去外面的电影院看看电影吧! (たまには映画を見に外の映画館に行ってみたら!)	以后还是多出去玩玩吧! (これからもできるだけ外に遊びに行っ てね!)		
	C班	理由	冗談		②
		因为每天都要很早上课, 所以要早一点睡觉。(毎日授業が早くから始まるから, 早目に寝なくちゃならないんだけど...)	如果你的男朋友每天都要待到那么晚的话, 成绩不好, 你要负责哦。(もしあなたの彼氏が遅くまで居ることで私の成績が悪かったら, あなたが責任を取ることになるよ!)		
	D班	理由	直接的依頼+語彙・統語的格下げ		③
		现在有点晚了, 我想睡了, (もうこんな時間だから, 寝たいんだけど)	能不能请你男朋友回家? (彼に帰ってもらえないかな?)		
	E班	理由	間接的依頼+語彙・統語的格下げ		③
		A: 我睡不着, (寝られないの) B: 我也想学习, (勉強したいの)	A: 所以, 可以的话, 请安静一点儿。(だからできれば, ちょっと静かにしてね) B: 可以请安静一点儿吗? (ちょっと静かにしてもらえないかな?)		

### 5. 考察——日中両語の依頼表現の比較・対照——

前項のシナリオ分析を基に, 以下ではシナリオ全体及びシナリオ各部に表れる日中両語の依頼談話の語用論的特徴について, 学生の理解につなげられるよう, 言語運用教育に重きを置いた比較・対照を行う。

#### 5.1 ポライトネス・ストラテジーから見る情報伝達の効率性及び対人配慮

4.2の結果をまとめると表Fとなる。

表F ストラテジー・レベル別分布

ストラテジー・レベル	①	②	③	④	⑤
日本語シナリオ	なし	なし	B・C・E班	A・D班	なし
中国語シナリオ	なし	B・C班	A・D・E班	なし	なし

2.2.3で述べたように、依頼の達成において重視されるべき「情報を明確に効率よく伝えること」と「聞き手の行動の自由を侵害することへの配慮」は両立が難しく、「情報伝達の効率性」と「対人配慮」は反比例の関係となる。この観点から日中両語のシナリオを比較対照すると、日本語シナリオはポライトネス・ストラテジー<③・④>に、中国語シナリオは<②・③>に分布し、中国語の方が数字の低い方にシフトしている。対人配慮の程度は、ストラテジーの低いほうから高い方へ①<②<③<④の順で高くなるため、日本語の方が対人配慮を優先し、聞き手の負担を減らす事に重点を置いている傾向があると言える。一方、情報伝達の効率性についてはストラテジーの高い方から低い方へ⑤<④<③<②<①の順で高くなるので、ストラテジー④「ほのめかし」のない中国語の方が、日本語よりも情報伝達の効率性を重視していると言えよう。また4.2で見たように、ストラテジー・レベルが③である日本語シナリオと中国語シナリオを比較すると、日本語シナリオ（B・C・E班）の依頼用件の提示が相手行為の問題点に直接触れず婉曲的であるのに対し、中国語シナリオの特にA・D班は相手行為の問題点を指摘し、依頼用件を明瞭に述べており、ストラテジー①の「あからさまな」依頼に近い表現となっている。このことから、中国語シナリオは語彙・統語的格下げ等の操作を通じ対人配慮を押しえた上で、同時に情報伝達も明晰になされていることが見て取れる。日本語シナリオにはストラテジー④を選んだ班が2つ（A・D班）あるが、そのうちのD班は人間関係を良好に保つことを優先した結果、依頼の達成を犠牲にしている<sup>7)</sup>。

さらに日本語シナリオの特徴として、聞き手との同意点を見つける事を重視していることが挙げられ、問題解決の成否もその点に関わっている事が窺える。同意点を見つけ会話の流れの主導権を取ったB班は依頼に成功し、同意点を見つけようとしても聞き手がそれを察しなかった為、同意点を見つけられなかったD班は依頼用件の言明すらできなかった。このことには「ポライトネスの原則」(Politeness Principle) (Leech1983)<sup>8)</sup>の中の「同意の公理」(=相手との意見の対立を最小とし、一致を最大とする)に対する日本語のこだわりの強さが表れていると言えよう。

以上の点から日本語の依頼表現では聞き手への負担軽減の配慮が優先され、中国語では課題達成志向が強く、情報伝達上の明晰さが優先されていることが明らかとなった。言語行為は言語運用のさまざまなルールを使用して行われるが、そのうちの何を優先するのかについては日中両語で社会文化的な差異があり、その背景には2.2.1で見たような依頼行為についての日中の捉え方の差があると考えられる。

## 5.2 日中両語の依頼発話行為の表現形式

### 5.2.1 依頼の「修復場面」の談話展開

今回のシナリオに見られる依頼表現の談話展開を先行研究との比較を通じて見ていきたい。

先行研究の多くは依頼の「恩恵場面」としての「モノを借りる場面」等を取り上げているが、この場面は依頼のFTA度が低く、断られても双方の関係に大きく影響を与えることは少ない。恩恵場面における談話展開の日中の違いについては、先行研究において以下のような分析結果が指摘されている。謝2001では、<同位・親密>関係で依頼用件の負担度が低い場合、

日本人の依頼会話が「注意喚起」→「見込みの確認」+「先行する補助使用」→「依頼発話」の順に展開されているのに対し、中国人は「注意喚起」→「依頼発話」に沿って、前置きなく直接依頼用件を述べるとし、李 2002では「本を借りる」場面において、＜同位・親密＞関係にある日本人の場合は依頼用件の前に「予告」が置かれるのに対し、中国人の場合は10名のうち半数が「予告」を置かないという結果が示されている。王 2010<sup>9)</sup>では、依頼用件の前段階では‘日本人…実施“預告”策略的达到6成多。而中国人…使用“預告”的人却不是很多。’（日本人は「予告」ストラテジーを6割以上の人が使用するが、中国人ではそれほど多くはない。）ことが明らかにされている。これら一連の先行研究では、日本人は「注意喚起」と「中心的依頼用件」の間に「見込みの確認」や「前置き」、 「予告」などを置くが、中国人は「注意喚起」から直接「依頼用件」に進む傾向にあり、日中の談話展開が異なることが示されている。

これに対し、本稿の調査結果<sup>10)</sup>では、日中の依頼の談話展開には大きな差異は見られず、「注意喚起」と「主要部」の間の「前置き」は中国語シナリオの8割に置かれている。さらに「主要部」内の「中心的依頼用件」の前には、「理由」、「ほのめかし」、「代案提示」など何らかの発話が置かれ、直接依頼用件に進んではいない。このことから日中の言語の違いに関わらず、FTA度が高い依頼場面では、談話展開において話し手がFTA度を極力減じようと緩衝機能を持つ発話を増やし、中心的依頼用件への婉曲的言及という手段を積極的に取ることが分かる。これは今回の依頼対話が「恩恵場面」とは異なり、中心的依頼用件が表現によっては直接「聞き手の行為を非難すること」になる危険性があるので、それを低減するためであると考えられる。このことから先行研究ではほとんど言及されていない恩恵・修復という依頼の性質の違いが、依頼の談話展開に影響を及ぼす要因になり得ることが窺える。

### 5.2.2 注意喚起部（話の口切部分）

注意喚起部での大きな違いは、日本語では「あの……」、「ちょっといい〜?」と言って、相手の名前を呼ぶことを避けているが、中国語では「斎同学（斎藤さん）」「章敏（フルネーム）」など相手の名前を直接呼ぶケースが多いことである。中国語では相手の名前を呼ぶことが挨拶になる（大河内 1997）が、日本語では名前を呼ぶことを避ける傾向があり、これは「名前を直接呼ぶことの距離のなさ」（滝浦 2008）が日本人の消極的フェイスを侵害することになってしまうからである。謝 2001でも述べられているように、名前を呼ぶという個人を認めることにつながる言語行為が挨拶になる中国語は積極的フェイスに対応し、相手領域への侵入をはばかって「あの〜」と切り出す日本語は消極的フェイスをケアしていると言える。

### 5.2.3 前置き部（依頼が行われることの予告）

前置き部を見ると、日本語シナリオでは、「すごく言いにくいんだけど……」（日本語A班）、「悪いんだけど,」（日本語E班）など言いさしの文が多用されている。文末を断定的に言い切らないこのような言いさしの表現は、「相手への遠慮の気持ちを示すとともに、相手の意向を伺ったり、相手にこちらの意図を察してもらえるように仕向ける機能」（日本語記述文法研究

会 2009) を持っている。対人的配慮の必要な依頼表現では重要な機能である。従って例 1 のように中国語シナリオの前置き部分を日本語に翻訳する場合、言いさしの表現の方が座りがよく、一方日本語の言いさしの文を中国語に訳す場合は、例 2 のように言い切りの表現にするのが自然である<sup>11)</sup>。

例 1. “我有一件事想跟你商量。” → 「相談したいことがあるんだけど……」

(中国語シナリオ C 班)

例 2. 「悪いんだけど,」 → “不好意思,” (日本語シナリオ E 班)

教室で行ったロールプレイでは、留学生の日本語の言いさし表現のイントネーションが不自然だという指摘が日本人学生からなされた。確かに、この言いさしの文が表している相手の負担に対する遠慮のニュアンスや「相手伺い」(三原 1995) のニュアンスは、中国語では語形式として表しにくく、あえて「相手伺い」に近いニュアンスを出そうとすれば、“你说呢?” (あなたは どう思う?) のように表せるが、これを繰り返せば聞き手に強い調子で返答を迫るような不自然な感じを与えてしまう。

聞き手との共感を確かめ合いながら展開する日本語の談話にとって、終助詞の機能もまた重要である。日本語は膠着語であるため、文末に幾つもの層をなすモダリティ表現が可能であるが、その部分を孤立語である中国語で表す場合、副詞や語気助詞だけでは十分には表し切れず、留学生にとっては習得するのが難しい表現である。教室では「(彼氏が遅くまで部屋にいると困る) んだよね」, 「(居づらい) んだよね」(日本語 A 班) の終助詞のモダリティ (説明のモダリティ・伝達態度のモダリティ) が表す意味を留学生に如何に理解してもらうかということについて話し合い、意味的補足或いはパラフレーズという手段をとることが有効だとの意見が出された。パラフレーズの結果、「～んだよね」に表されている話し手の心的態度は、中国語では“你说吧?” (あなたもそう思わない?) となるとの結論に達したが、この教室での考察は留学生のモダリティ理解につながり、日本人学生の中国語の言語特徴理解にも有用であった。日本語学習者に言いさしの文や終助詞を指導する必要性は既に多く指摘されているが、学生が翻訳や個々の言語現象の考察を自ら行い理解していくことも有効な外国語学習方法の一つと言えるであろう。

## 5.2.4 主要部 (依頼用件)

### 5.2.4.1 主要部の意味公式の特徴

本稿では「主要部」を「理由 (前置), ほのめかし, 代案提示等」+「中心的「依頼用件」」+「理由 (後置)」の 3 つに分けている。この部分は聞き手の行為の問題点を伝え、改善を求めることをどう表現するかという点で依頼の「修復場面」の最大のポイントとなるが、日中両語では意味公式に大きな差異が見られる。

日本語シナリオに中心的依頼用件の欠如が 2 例 (日本語 A・D 班) 見られることは、中国語シナリオとの比較で際立った特徴となっている。そのシナリオでは、依頼に相当する発話が

「理由（前置）」、「ほのめかし」であり、「困るんだよね」、「明日起きれないよ」など、話し手自身の心情・状況を独り言のように述べる、或いは聞き手の領域に極力触れないように婉曲的な表現でほのめかすなどの手段を用いている。この日本語シナリオの特徴である「依頼の典型的な形をなさない聞き手の察しに頼った発話」に対して、留学生から「依頼とはとれない」、「話し手が聞き手の行動に困っていることが全く伝わらない」などのコメントが出された。「修復場面」の依頼では聞き手に非があり、それを話し手が指摘することにより聞き手の感情を傷つける可能性が高く、シナリオからは日本人学生が特にこの点に慎重になっており、消極的なストラテジーを行使していることが見て取れる。

主要部の意味公式については、5.1でも見たように、中国語シナリオの直接的依頼が目立っている。統語的格下げを行っているものの、「彼に遅くまで部屋にいないでもらいたい／帰ってもらいたい」など具体的要求を明示した例が2つのシナリオ（中国語A・D班）で見られる。その他のシナリオでも「あなたの彼氏が遅くまでいることで……」（意味公式は「冗談」、中国語C班）、「これからもできるだけ外に遊びに行ってね」（意味公式は「代案提示」、中国語B班）など、依頼要件が聞き手に明確に伝わるように表現されている。

中村・他 2004によれば、日本語の依頼表現では「恩恵場面」・「修復場面」とともに、間接性が高いほど被依頼者の否定的感情が減じられ、依頼者に対する印象が好意的になるとともに、依頼を承諾する傾向が強くなると指摘されており、今回の日本語シナリオにも間接的依頼が多用されている。これに対し中国語シナリオでは、日本語シナリオに見られない「代案提示」や仲間意識に訴える「冗談」の意味公式が積極的に使用されているが、「代案提示」は聞き手の行為に改善点があるということを前提とした発話であると聞き手がとらえてしまう可能性が高いため、FTAに敏感な日本語の依頼表現では回避される傾向にあり、この点に日中の中心的依頼要件に使用されるストラテジーの違いが顕著に現れている。

実際の異文化接触場面を想定した場合、日本人の好む「聞き手の察し」に頼った談話展開は、結果として依頼の達成がかなわなくなってしまうため、言語運用能力をつける上ではアサーティブな表現スキルの学習も同時に行う必要があり、特に日本人学習者の外国語学習過程には積極的に導入されるべきであると思われる。

#### 5.2.4.2 主要部の言語表現形式の特徴

主要部の依頼要件の言語表現形式は、日本語シナリオでは「～てくれない?」「～てもらえないかな（あ）」等、若者同士に見られる親しみのある表現が多用されている。一方、中国語の方は“可不可以请～呢?”“能不能请～?”という可能の助動詞を反復疑問文にし、さらに兼語動詞の中でも丁寧表現となる“请”が付加されている。これはかなり程度の高い丁寧な表現で、他人行儀な印象を与えることもあることから、ルームメイト同士の会話で当該表現を使用するのは自然かどうかについて留学生間で意見を出し合ったが、自然だと言う者も不自然だと言う者もあり、個人による語感の差もあり結論は出なかった。若生・神田2000の中国語依頼表現の丁寧度についての調査では、現在は丁寧表現の分化が進行している過渡期にあり、「全体的にはまだ定着していない」が「一般的に『南』ほど、大都市ほど、知識階級ほど、言葉の

分化は進んでいると思われる」と述べられている。つまり「南」の都市部の知識階級は、香港や台湾などの小説や映画、ドラマなどの影響から、若い世代を中心に新しい語彙・表現が入り込みやすく、当該授業の留学生のように教育レベルの高い若い層は、婉曲表現を好み、丁寧な表現を多用するという傾向があると言えるのである。この調査は1999年に実施されており、中国社会の変化のスピードから見て、現在では更にこの傾向が広まっているのではないかと思われる。日本人学生の中には「中国語には敬語がないので、中国人はモノを頼む時に直接的な表現を使う」と考えていた者も多かったが、中国語シナリオにおける“可以请～吗？”，“可以的话，请～一点儿。”等の配慮表現の使用やこれらの配慮表現についての留学生の意見から、中国語では若者同士の依頼のやりとりでも、依頼用件のFTA度によって日本語よりも丁寧な表現形式を使うことがあるということを理解することができた。言葉は社会の変化とともに変わっていく。同世代の若い留学生から直接学べる「生きた」中国語は、教科書を通じた学習とは一味違ったインパクトを学生に与えられるというメリットがある。

#### 5.2.5 補助表現部（感謝・謝罪・許可・負担の軽減化など）

水野 1996, 許 2002では日本人と中国人の、関口 2007では日本人と台湾人との依頼表現の比較から、中心的依頼用件の発話の後、中国人・台湾人には「謝罪」よりも「感謝」の表現が多用されることが明らかにされている。これは中国人・台湾人がマイナス表現（「謝罪」）よりもプラス表現（「感謝」）により自分の気持ちを伝え、積極的に依頼行為を成功させようとすることによる。

これに対し、日本語表現では補助表現部に謝罪が用いられることが少なくない。謝罪表現に関しては、日本語E班のシナリオに特筆すべきやりとりが見られる。

（依頼者：彼氏が来る時はもうちょっと静かにしてもらえないかなあ？）

ルームメート：ああ、ごめーん。次からは気をつけるね。

依頼者：ううん、こっちこそ、ごめんねー。

まず、非のあるルームメートが「ごめーん」と言い、それに対して非のない依頼者が「ごめんねー」と謝り返している。この「謝り返し」は一体何を表しているのか。「ごめんねー」を“对不起”と同じだと考えていては分からない。この場面で“对不起”<sup>12)</sup>が発せられることは中国語ではあり得ず、留学生からも「なぜ謝り返す必要があるのか」との質問が出た。シナリオを書いた日本人学生に説明を求めると、「謝られたら、謝り返すのが日本人らし」く、日本人にとって何ら不自然なやりとりではないということであった。

この日本人学生の言語感覚は、フェイスの観点から、日本人には非がどちらにあるかということとは関係なく、謝られた人は謝った人の傷ついたフェイスをそのままに放置できないという心理が働くことにより形成されるコミュニケーション・パターンであると説明できる。熊谷 2008では「日本における相互扶助的なフェイス保持のパターン」が指摘されており、上記のような「謝り返し」は「相互作用をする話者同士が互いに自分ではなく相手のフェイスをもっばら手当てする」パターンで、「日本人の相互作用においては『尊重したり回復したりすべきは相手のフェイス』という認識が共有されて」おり、話し手の謝罪に対し、聞き手が「こちらこ

「すみませんでした」と受け、それに対し「いや、とんでもない」との応答が繰り返されるのは「互いに自分のフェイスを危うくしてそれを相手に救ってもらうという一種の儀礼的なやりとりで、それを通して、ともに問題解決にあたるための関係づくりが行われる」のであり、日本人にとっては何らおかしなやりとりではないのである。

話し手自身の積極的フェイスを傷つける謝罪に対して、聞き手が何らかの手当てをし救済しようとすることは、もちろん中国語でもなされる。しかしその言葉は“对不起”ではなく、“没事（「いいよ、気にしないで、大丈夫」）”或いは“没关系（「構いません、心配しないで」）”などの「許し」や「承諾」を表す言葉で行われる。

この点に関して外国語教育上留意しなければならないのは、日本語学習者には日本語で多用される「ごめんなさい／すみません」などの謝罪表現が、日本語では謝罪機能を表すだけでなく、「呼びかけ／感謝と謝罪の混在／社交辞令」などのより広いコミュニケーション機能をも担っていること（新井 2003）、つまり謝罪表現の多義性を教えなければならないことである。同時に中国語学習者には、日本語の謝罪表現が中国語ではより分析的にどう表現されるのかを明確に教える必要がある。双方にこれらの点が理解されていないと、中国人には日本人は謝ってばかりいるとの誤解が、日本人には中国人は謝ろうとせず失礼だとの誤解が生じてしまうことになる。中国語の謝罪表現は発話意図により、非が自分にあり、相手に迷惑などの不利益を与えた時は“对不起”，或いはより丁寧なニュアンスを帯びる“请原谅”，恐縮する、きまりが悪い程度の軽いお詫びは“不好意思”，相手に何かを頼み、面倒を掛ける（掛けた）時は“麻烦你”と使い分けられており、さらにこれらの謝罪に対し、全て問題がないという許しと承諾の気持ちを表したければ“没事”と返す。従って、5.2.5冒頭の対話を中国語に訳す場合、「ああ、ごめん。次からは気をつけるね。」の“对不起”に対する「こっちこそ、ごめんねー」の「ごめんねー」は、“对不起”ではなく“没事”が最適な表現となるのである。言語運用能力を養成するための外国語教育ではこのような語彙の分析的な比較・対照にまで踏み込む必要がある。

## 6. まとめ

今回分析対象とした学生自作の日中両語各5種のシナリオはクリエイティブ且つ多様であったにもかかわらず、学生達は一連の発話群に母語文化の言語運用ルールがしっかりと埋め込まれている事を、目標言語との比較を通じ、驚きながら実感を伴い発見・確認することができた。異文化間語用論を援用した教室活動は文法の学習や既成のテキスト・教材では得られない手ごたえのある異文化理解につながったと言えよう。

近年、多国籍の学生からなる合同授業が多くの学校で様々な形式・内容で行われるようになってきている。この事は多文化共生社会への転換が課題になりつつある現在、非常に意義のあることである。数ある合同授業の中で、当該合同授業の特徴として挙げられることは、ネイティブ同士が目標言語を相互学習できることである。この利点を活かし、今回新たな試みとして語用論の観点に立ち言語運用ルールから異文化理解にアプローチした。依頼表現シナリオの考

察を通じ、学生にとっては日中両言語の言語学的知識を学習できるだけでなく、社会言語能力の養成にもつながる学習となった。今後更に授業方法を工夫し、学生の主体性を引き出していくことにより、外国語授業の可能性を更に広げ、深めていきたい。

#### 注

- 1) 本稿は2011年3月に行われた東海大学国際教育センター主催の第2回FD研究会「日本語教育実践の試み」における研究発表「外国語学習と異文化理解をどうつなげるか——合同授業：留学生<中国語話者>と日本人<中国語学習者>の場合——」をもとに加筆・修正したものである。
- 2) 依頼表現の談話展開は言語により相違があることがいくつかの先行研究で明らかにされている。例えば猪崎 2000では、「依頼」会話について日本人とフランス人の「談話展開のメカニズム」を分析した結果、日本人は依頼の「予告」から「依頼」へと進み、状況によってこの二つの間に「先行発話」を置くが、フランス人は日本人と異なり、依頼の「予告」を置かず、「先行発話」から「先行発話応答」を経て「依頼」へと進む談話展開を好むことが示されている。
- 3) 表Aは清水 2009及び滝浦 2008を参考に作成したものである。
- 4) 稿末資料1)「我留学時の同居」参照。
- 5) 中間言語的語用能力がシナリオに反映される可能性については、中国語初級レベルである日本人学生の場合その可能性は低い。日本語上級レベルである留学生の中国語シナリオにはその可能性があるが、その影響をチェックするために、中国語としての自然さについて、授業時に相互評価・問題点の検討を留学生同士で行った。なお、同じグループの日本語と中国語のシナリオは、一方から一方への翻訳ではなく、それぞれ独自に作成したものである。
- 6) 意味公式 (semantic formula) は「特定の意味的基準やストラテジーを満たす単語、句、文から成る単位で、単体でまたは複数を組み合わせて行為の遂行に用いられるもの」(清水 2009, 56～57頁)との定義に基づく。
- 7) 「自分だったらどのように言うか」という視点からシナリオを作らせたが、日本語D班は何故このようなシナリオを作ったのか。作成者のコンセプトは「直接彼が遅くまでいたことを注意するのではなく、あくまで遠まわしに話す。はっきり言わない。」(作成者提出物の記載より引用)ということである。
- 8) Leech 1983は対人的配慮のために伝達必ずしも優先されない事例を説明するために「ポライトネスの原則」と6つの下位公理を提示した。この原則によって対人関係を円滑に保ちつつ言語伝達を行うことができる。(清水 2009, 24～25頁)
- 9) 王 2010の調査では、6つの修復及び恩恵場面を設定しているものの、その結果は分けて示されていない。
- 10) 今回の調査は日中各5本のシナリオに基づいており、数の上から見て十分に一般化できるまでの調査結果を得られたとは言えない。先行研究においても依頼の「修復場面」についての研究報告は少ないので、今後更に詳しい調査を行う必要がある。
- 11) 中国語にも言いさしの表現はあるが、本来逆接関係を表す「～けど」のような接続詞(“但是”“不过”など)を前置きの言いさし表現に使うことはない。このため「～けど」を中国語訳する場合、中国語の方には必ずしも語彙的な対応があるわけではなく、場合によってはイントネーションや言い淀みなどの音声的手段で表されることもある。陳 2009では“但是”に対応しない「～けど」の機能の中国語における言語形式が考察されており、例として語気詞(“呢”“啦”など)や能願動詞を含む反復疑問文などが挙げられている。
- 12) “对不起”については謝罪用法以外に、依頼の呼びかけ語として使うケースもあるが、その用法については違和感を持つ人もいる(若生・神田 2000)。



## 参考文献

- 橋元良明・他 1992「婉曲的コミュニケーション方略の異文化比較——9言語比較調査——」『社会情報研究所調査研究紀要 No.1創刊号』東京大学社会情報研究所 (107~159頁) 1992年10月
- 清水崇文 2009『中間言語用論概論 第二言語学習者の語用論的能力の使用・習得・教育』スリーエーネットワーク 2009年12月
- 鈴木睦 1989「聞き手の私的領域と丁寧表現——日本語の丁寧さは如何にして成り立つか——」『日本語学 VOL.8』(58~67頁) 明治書院 1989年2月号
- 王志英 2005「第二章 命令・依頼の表現における機能の定義」『命令・依頼の表現——日本語・中国語の対照研究——』(7~47頁) 勉誠出版(株) 2005年3月
- 安本真弓 2009「依頼表現スタイルの日中対照研究——映画・テレビ・現代劇のシナリオから——」『野州國文學 第八十二号』(1~17頁) 國學院大學栃木短期大學國文學會 2009年3月
- 相原まり子 2008「依頼表現の日中対照研究——相手に応じた表現選択——」『言語情報科学(6)』(1~17頁) 東京大学大学院総合文化研究科 2008年3月
- 浜田麻里 1995「依頼表現の対照研究——中国語における命令依頼の方略——」『日本語学 Vol.14』(69~75頁) 明治書院 1995年10月号
- 山岡政紀, 李奇楠 2004「依頼表現の日中対照研究」『日本語文化研究 第5輯』(131~160頁) 学苑出版社 2004年3月
- 林淑珠 1982「日本語と中国語の命令・依頼表現の比較——丁寧度の観点から——」『国語学研究 22』(1~13頁) 東北大学文学部国語学研究室内「国語学研究」刊行会 1982年12月
- 馬場俊臣, 盧春蓮 1992「日中依頼表現の比較対照」『北海道教育大学紀要(第1部A)』第3巻第1号(57~66頁) 北海道教育大学 1992年7月
- 谷口龍子 2006「日本語と中国語における依頼の丁寧度」『社会科学ジャーナル57号 COE 特別号』(393~407頁) 国際基督教大学 2006年3月
- 若生久美子, 神田富美子 2000「中国語における依頼表現の丁寧度」『中国語学247号』(294~310頁) 日本中国語学会 2000年10月
- 謝オン 2001「談話レベルから見た「依頼発話」の切り出し方——日本人大学生同士と中国人大学生同士の依頼談話から——」『日本語研究教育年報5』(77~101頁) 東京外国語大学 2001年3月
- 李善子 2002「中国語と日本語における談話の構造——依頼を中心に——」『比較社会文化研究 第12号』九州大学比較社会文化学府 (101~107頁) 2002年10月
- 許清平 2002「日中母語話者における「依頼」発話行為に関する研究——意味公式の使用について——」『語文と教育(16)』鳴門教育大学国語教育学会 (47~38頁) 2002年8月
- 関口剛司 2007「日本語による依頼表現の一考察——日台異文化コミュニケーションの視点から——」『龍華科技大學學報第二十三期』龍華科技大學 2007年9月
- 王静 2010<汉日“请求”言语行动的比较研究——语言环境对请求调控策略的影响>《日语学习与研究2010年第1期》(56~63頁)《日语学习与研究》杂志社 2010年2月
- 熊取谷哲夫 1995「依頼表現の位置」『日本語学 VOL.14』(12~21頁) 明治書院 1995年10月号
- 中村真, 阿久井香織 2004「依頼表現の間接性に関する研究——被依頼者の視点から——」『川村学園女子大学研究紀要第15巻第1号』川村学園女子大学 (99~115頁) 2004年3月
- 入江時子, 菅原良子, 関浩一, 清水隆司 2008「大学におけるアサーティブ・トレーニングの教育効果に関する考察——自己信頼感の獲得を中心にして——」『現代社会学部紀要6巻1号』(1~12頁) 長崎ウエスレヤン大学 2008年3月
- 滝浦真人 2008『ボライトネス入門』研究社 2008年9月
- 大河内康憲 1997「中国のあいさつ語」『中国語の諸相』(223~239頁) 白帝社 1997年
- 三原嘉子 1995「接続助詞ケレドモの終助詞的用法に関する一考察」『横浜国立大学留学生センター

- 紀要』第2号(79~89頁) 横浜国立大学 1995年2月
- 水野かほる 1996 「『依頼』の言語行動における中間言語語用論——中国人日本語学習者の場合——」『言語文化論集 第17巻2号』(91~106頁) 名古屋大学言語文化部 1996年3月
- 熊谷智子 2008 「依頼と謝罪における働きかけのスタイル」『言語』(26~33頁) 大修館書店 2008年1月号
- 新井芳子 2003 「コミュニケーションにおける謝罪行動——日本社会と台湾社会の事例を対照にして」『東呉日語教育学報』(92~121頁) 東呉大学日本語文学系 2003年7月
- 猪崎保子 2000 「『依頼』会話に見られる『優先体系』の文化的相違と期待のずれ——日本人とフランス人日本語学習者の接触場面の研究——」『日本語教育104号』日本語教育学会 (79~88頁) 2000年3月
- 柏崎秀子 1993 「話しかけ行動の談話分析——依頼・要求表現の実際を中心に——」『日本語教育79号』日本語教育学会 (53~63頁) 1993年3月
- 日本語記述文法研究会編 2009 『現代日本語文法7 談話・待遇表現』くろしお出版 2009年6月
- 陳美玲 2009 「話しことばにおける『けど』と中国語との対照について——これまでの研究で無対応の部分を中心に——」『日本語教育をめぐる研究と実践』(152~166頁) 水谷信子監修 凡人社 2009年5月
- Brown & Levinson 1987 Politeness: Some Universals in Language Usage. Cambridge University Press.
- Leech, G.N 1983 Principles of pragmatics. London: Longman

## 稿末資料

## 1) 「第1回桜美林大学中国語スピーチコンテスト」原稿集より(2005年6月11日開催)

## “我留学時の同屋”

工藤 由貴

去年、我去北京外国语大学留学了一年。充满着期待，我来到了北外的留学生办公室。办公室的老师告诉我，我的同屋是韩国留学生。一瞬间，我感到有些不安。我心里本来一直希望能跟日本人同住。出门在外，跟生活习惯相近的人一起住，总是比较好。但我又想，试试吧，也许不会有什么问题。

但是不出意料，生活习惯就是不同。最难以忍受的，是同屋跟一位韩国男留学生谈恋爱，这位男朋友晚上常常来我们房间，好几次都到深夜还不走，搞得我不能睡觉。忍无可忍，我对同屋说，以后不准你男朋友来我们房间，因为在这个房间里生活的不是你一个人。我同屋很惊讶，睁大眼睛看着我，然后急忙说：“对不起，对不起。工藤，你为什么早说？实在对不起。”

从那以后，同屋的男朋友就再也没来过。但是我发现，其他房间的韩国女孩儿，也是常有男朋友来。不仅是晚上来，白天也来。来了以后，一屋子的人高高兴兴，笑声常常传到屋子外边儿来。我想，是不是我错了？不一定不是！是她给我添麻烦，怎么会是我不好呢！你看，同屋一直觉得对不住我，常常做菜给我吃，还常常找时间陪我去买东西。

有一天，我病了，发烧，很厉害。同屋本来有约会，她打电话取消了约会。同屋对我照顾得真是无微不至。带我去看病，半夜起来倒水给我喝，为我做饭，给我按摩，整天陪着我。我看得出同屋累了。我很不好意思。病稍微好点儿了。我对同屋说，你叫男朋友来玩儿吧。她说，没关系，等我病好了，我会跟他玩儿个痛快。

我的心里很复杂。我不喜欢给人添麻烦，也忍受不了别人给我添麻烦。这是我的性格，也许是我们日本人的习惯。而我的同屋不在乎给人麻烦，也不在乎别人给她添麻烦。跟有这样的性格的人相处，我该怎么办？

一直到我留学结束，离开北外大，同屋的男朋友都没有再来我们房间。

同屋，对不起。

## 2) 各グループの作成したロールプレイ・シナリオ

## 「“我留学時の同屋”から考える依頼表現」

## A班：

工藤：是说，最近有好多考试呢！  
 同屋：真的吗？  
 工藤：对啊！所以我希望能早点睡。  
 同屋：这样啊。  
 工藤：所以，可不可以请你男朋友不要在我们房间待到那么晚呢？  
 同屋：诶。  
 工藤：他待太晚，常常会让我睡不着。  
 同屋：这样啊！？我都没注意到。  
 工藤：麻烦你跟他说明一声了。  
 同屋：我明白了，真的对不起…

工藤：あの…  
 同屋：ん～？どうしたの？  
 工藤：すごく言いにくいんだけど…  
 同屋：なに？言ってよ。  
 工藤：えっと…彼氏が遅くまで部屋にいると困るんだよね。  
 同屋：ごめん…でもなんで？  
 工藤：居づらいんだよね。  
 同屋：そうか、ごめん、気をつけるよ！  
 工藤：ありがとう…

## B班：

同屋：（给男朋友打电话）今天来玩儿吧！一起看电影！  
 彼氏：好啊！我正好想看一部新片。  
 同屋：那就这么说定了，今晚来我这儿一起看吧！  
 彼氏：嗯，我顺便带点零食来，边看边吃。  
 工藤：诶？今天也来啊？你们偶尔也去外面的电影院看看电影吧！  
 同屋：好吧！知道了，今天就出去玩吧！  
 工藤：以后还是多出去玩玩吧！外面的世界更精彩！（笑）

同屋： もしもし、今日も来てくれる？  
彼氏： もちろんだよ。また10時ぐらいに行くよ。  
同屋： 10時ね！じゃあ、待ってるね。  
工藤： 今日も彼氏連れて来るの？今日はちょっと早く寝たいな…  
同屋： そっか。じゃあ、今日はやめとくね。  
工藤： これから彼氏連れてきたい時は相談してくれない？  
同屋： わかった！確認とるね。

C 班：

工藤： 斋同学，我有一件事想跟你商量。  
同屋： 什么事啊？  
工藤： 因为每天都要很早上课，所以要早一点睡觉。  
如果你的男朋友每天都要待到那么晚的话，成绩不好，你要负责哦。  
同屋： 好的。不好意思。我会注意的。

工藤： あのさ、ちょっといいかな？  
同屋： なに？  
工藤： 毎日授業が早くて、早めに寝たいからもう少し静かにしてもらえないかな。  
同屋： ごめん、わかった、気を付けるよ。

D 班：

場所…部屋，登場人物…工藤，同屋（ルームメイト），彼氏

工藤： 不好意思，章敏。你能出来一下吗？  
同屋： 你有什么事吗？  
工藤： 现在有点晚了，我想睡了，能不能请你男朋友回家？  
同屋： 啊，对不起。我马上叫他回家。  
工藤： 真不好意思。

場所…部屋，登場人物…工藤，同屋

工藤： （彼が帰った後）眠くないの？  
同屋： 楽しかった。あなたも楽しかったでしょ？  
工藤： 楽しかったけど、こんな遅くまでだと明日起きれないよ。  
同屋： 私は起きれるよ。  
工藤： そっかあ。すごいね。

E 班：

場所…部屋，登場人物…工藤さん，同屋，彼氏

工藤A： 不好意思…我睡不着，所以可以的话，请安静一点儿。  
工藤B： 我也想学习，可以请安静一点儿吗？  
同屋： 对不起，我知道了。  
彼氏： 对不起。  
工藤： 好了，好了。下次注意就好。

登場人物…工藤さん，同屋

（うるさく大きな声で話す）  
工藤： ちょっといい～？悪いんだけど、彼氏が来る時はもうちょっと静かにしてもらえないかなあ？  
同屋： ああ、ごめん。次からは気をつけるね。  
工藤： ううん、こっちこそ、ごめんねー。

3) ロールプレイ・シナリオの分析結果

表B 日本語シナリオ 意味公式別一覧表 (依頼表現)

意味公式	注意喚起	前置き	主要部			補助表現
			理由 (前置), ほのめかし,	依頼用件	理由 (後置)	
A 班	あの…	すごくいいにくいんだけど…。えっと…	理由 彼氏が遅くまで部屋にいると困るんだよね。 居づらいんだよね。	言明なし		感謝 ありがとう…
B 班		今日も彼氏を連れて来るの？	理由 今日はちよつと早く寝たいな…	間接的依頼 + 統語的格下げ (そっか。じゃあ、今日はやめとくね。) これから彼氏を連れてきたい時は相談してくれない?..		
C 班	あのさ、	ちよつといいかな？	理由 毎日授業が早くて、早めに寝たいから	間接的依頼 + 語彙・統語的格下げ もう少し静かにしてもらえないかな。		
D 班		眠くないの？	ほのめかし 楽しかったけど、こんなに遅くまでだと、明日起きれないよ。	言明なし		賞賛 そっかあ。すごいね。
E 班	ちよつといい～？	悪いんだけど、		間接的依頼 + 語彙・統語的格下げ 彼氏来る時はもうちよつと静かにしてもらえないかなあ?..		詫言 ううん、こっちはそ、ごめんねー。

表C 中国語シナリオ 意味公式別一覧表 (依頼表現)

意味公式	注意喚起	前置き	主 要 部			補助表現
			理由 (前置), 代案提示	依頼要件	理由 (後置)	
A 班	是说, (あの)	最近有好多考试呢! (これから試験が軽くの!!)	理由 所以我希望能早点睡。(だから早目に寝たいんだけど)	直接的依頼 + 語彙・統語的格下げ 所以, 可不可以请你男朋友不要在我们房间待到那么晚呢? (それで彼氏に遅くまでいないように言ってもらえないかな?)	他待太晚, 常常让我睡不着。(遅くまで居られると寝られなくて。)	詫び・確認 座烦你跟他说一声了。(悪いけど、彼にちょっと言ってみてね。)
B 班	诶? (あら?)	今天也来啊? (今日も来るの?)	代案提示 你们偶尔也去外面的电影院看看电影吧! (たまには映画を見に外の映画館に行ってみたら!)	代案提示 以后还是多出去玩玩吧! (これから多もできるだけ外に遊びに行ってね!)		冗談 外面的世界更精彩! (笑) (外の世界はここより素晴らしいよ!)
C 班	高同学 (斎藤さん)	我有一件事想跟你商量。(相談したい事があるんだけど……)	理由 因为每天都要很早上课, 所以要早一点睡觉。(毎日授業が早くから始まるから, 早目に寝なくちゃならないんだけど……)	冗談 如果你的男朋友每天都要待到那么晚的话, 成绩不好, 你要负责哦。(もしあなたの彼氏が遅くまで居ることで私の成績が悪かったら, あなたが責任を取ることになるよ!)		
D 班	不好意思, 章敏。(ごめん, 章敏さん)	你能出来一下吗? (ちよつと, 来てくれる?)	理由 现在有点晚了, 我想睡了, (もうこんな時間だから, 寝たいんだけど)	直接的依頼 + 語彙・統語的格下げ 能不能请你男朋友回家? (彼に帰ってもらえないかな?)		詫び 真不好意思。(ごめんね)
E 班	不好意思 (悪いんだけど……)		理由 A: 我睡不着, (寝られないの) B: 我也想学习, (勉強したいの)	間接的依頼 + 語彙・統語的格下げ A: 所以, 可以的话, 请安静一点儿。(だからできれば, ちよつと静かにしてね) B: 可以请安静一点儿吗? (ちよつと静かにしてもらえないかな?)		没事, 没事。(ううん, いいよ。)

中国語シナリオ